

第31回農村環境写真コンテスト作品評

特別審査員：種清 豊氏（日本写真家協会）

（撮影者：敬称略）

★ 千葉県知事賞

「錦秋」



（撮影場所：香取郡東庄町 撮影者：石毛 忠男）

両側の山すそがなだらかに落ち込み、画面真ん中に奥行きを与える撮影ポジションの選定がこの作品の見どころです。稲の姿が、機械的ではなくランダムに並び手作業で行った様子が、何とものどかで気持ちがいいものです。
また、広い空を入れた写真は殺風景になりがちですが、この作品は雲の表情が良く、広々とした情景にいいアクセントを演出してくれています。
一点だけ、紅葉にはまだ早い時期であり、タイトルは一考の余地があります。

★ 千葉県土地改良事業団体連合会長賞

「牧草ロールと猫じゃらし」



（撮影場所：いすみ市 撮影者：波多野 保）

牧草ロールを斜めにみせた画面配置がイイですね。朝日でしょうか、逆光により金色に輝く草の表情、遠方は朝もやがかかっているなど、絶妙なタイミングで撮影出来たのではないのでしょうか。猫じゃらしの一本一本のディティールもよく表現できているきれいな作品です。

★ 特 別 賞

【千葉県農村振興技術連盟賞】

「区画整理」



撮影場所：いすみ市

撮影者：井上 すみ子

大規模な農地改良工事ということで、今回のコンテストの趣旨に当てはまった農政事業を捉えた作品です。ショベルカーの配置、作業員の動き、持ち上げられた部材など、細かな様子を一点ずつ確認していくだけでも写真の見せ場がいくつもちりばめられています。単純な状況カットとしてではなく、ドキュメントスナップの要素が強い作品です。

【千葉県多面的機能推進協議会賞】

「里のオアシス」



撮影場所：香取市谷中

撮影者：宮野 昌起

昔ながらの農村の小さな原風景を感じさせる一枚です。池を縁取るような彼岸花が緑の中に映えますね。画面右の木立の配置もいいですね。水面の映り込みの様子を意識した撮影ポジションや画面に広がりを持たせるために、手前を入れすべく少し引いて撮影するとよかったですよ。

【ちば水土里支援パートナー賞】

「春舞台」



撮影場所：成田市松崎

撮影者：入岡 一郎

田植への準備と4月初旬、春の景色をまとめた作品ですね。水田の風景ですが、遠景の空、桜、木々の様子も一枚にバランスよく取りまとめた印象を受けます。主役の水田を耕すトラクターの配置、サイズ感などを考えた画面作りも意識されたと思います。ポイントとして、画面手前の畔を入れつつ、画面を広く撮り、もう少し水田の様子が伝わる画面構成でアプローチしてみてもよかったですよ。また、原色鮮やかで少しコントラストが強いところは好みのわかれるところです。

★ 金賞

「落花生脱穀」



撮影場所：千葉市若葉区

撮影者：戸崎 安司

画面手前のぼっちの前ボケを活かしつつ、少し離れた位置からややロングでアプローチすることで、脱穀作業と吹き飛ばされる殻の様子をシンプルかつ的確にまとめた一枚です。背景のグリーンが作品にコントラストと色を与え、地味な印象をそぎ落としてくれた点も高評価です。

★ 銀賞

「田植え始まる」



撮影場所：印西市下井

撮影者：梅川 記生

整然と植えていかれる苗の姿、見ているだけでも面白い光景だったのではと思います。シンプルな画面構成ですが、直線に並ぶ苗の姿を見せるには一番適切なフレーミングだったかと思います。田植え機を大きく見せようとしたのか、少し画面が窮屈ですから、ワイドで狙い水田を広く見せるとよかったです。

「沼に浮ぶ吉高機場」



撮影場所：印西市吉高

撮影者：下谷 一成

突然そびえる威容を誇る堂々とした構造物。印旛沼沿いに建つその建物は沼地の様子とマッチさせるのに絶好のアイコンです。背景は干拓地ですので周囲に建物は少なく、空の様子をうまく生かして撮影できています。並んだカワウはまあ愛敬といったところでしょうか。

★ 銅 賞

「秋桜また来年」



撮 影 場 所：佐倉ふるさと広場

撮 影 者：平野 博之

イベント会場での一コマとはいえ、夕暮れ時のアベイルライトのなか、トラクターのライトを印象的にとらえた、どこか情緒的な作品に仕上がっています。また来年も見えるであろう光景に思いをはせながら、という作者の感情を伝えてくれる一枚です。

「お願いしますお父さん」



撮 影 場 所：印西市吉高

撮 影 者：西脇 尚一郎

ちょうど苗箱を受け渡す瞬間でしたね。幸運なことに、女性の肩から上には光があたってくれていたおかげで横顔ながら明るい様子の表情が記録できました。とっさにシャッターを切ることも大切ですが、周囲のライティングは常に確認しておきましょう。

「夏野菜のトンネル栽培」



撮 影 場 所：千葉市緑区小山町

撮 影 者：佐藤 ありさ

何気ない日常の、見慣れた光景なのかもしれませんが、常に観察できる被写体だからこそ一つの撮影テーマになると思います。そして、その被写体のことが好きであることは最も大事な撮影の心構えです。コメントにあるように、野菜が育つその姿、特に夕方の光景が好きという何気ないきっかけが良い作品を作ってくれるのです。

★ 佳作

「収穫」



撮影場所：銚子市

撮影者：嶋田 洋

これ面白い作品ですよ。一見案山子が並んでいるだけかと思ったら、真ん中に段ボールを持った農家の人がぴったり収まっています。当然、作者の狙い通りなのでしょうが、ユーモアを兼ね備えた一枚に仕上げる感覚はとても大切です。

「田圃の土地改善」



撮影場所：八千代市平戸

撮影者：中村 隆次

綺麗に整備が完了し、いよいよ水田として稼働する直前の姿を捉えた一枚なのでしょう。一度水を入れてしまえば、この姿を見ることは出来ず、実は一度しか撮影できないドキュメントでもあります。写真の持つ記録性をここにも見つけることができました。

「白菜の収穫」

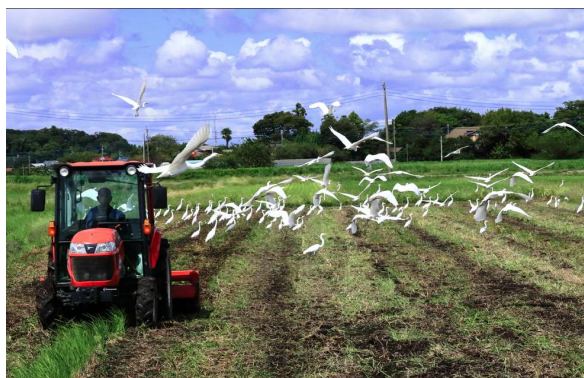


撮影場所：千葉市緑区小山町

撮影者：佐藤 琢耶

採れたばかりのみずみずしさと、キレイな白とグリーンのコントラストが映える一枚。収穫用の包丁も少し見切れているのが、刈り取った直後という様子を演出してくれています。ご自身で育て収穫した野菜だからこそ愛情もひとしおでしょう。写真を見ただけでも食べてみたくなる、美味しさが伝わりますね。

「群がる白鷺」



撮影場所：成田市北須賀

撮影者：下谷 一成

警戒心の強い鳥ということで離れた場所、車内からの撮影ということですが、トラクターや農家さんには警戒しないのでしょうか。鳥が飛翔している姿はよくわかりますが、作者の撮影意図がもう少し明確に表現できているとよかったです。

★ 佳作

「ボクとばあばの夏休み」



撮影場所：千葉県館山市

撮影者：山田 颯真

稲を干す作業を手伝った夏休みの思い出。毎年毎年良いお米ができるようにと、人の手で作られているんだということがよくわかりますね。大人でなくても子供でも手伝える作業がある。小さい時にいい経験ができましたね。ところで、撮影者は8歳の少年ではなくもちろんお母さんですよ…。

「一日の始まり」



撮影場所：印西市

撮影者：井上 すみ子

画面手前の広々とした元耕作地。空の広さ。耕運機のサイズ感がわかる画面右の立木。素材の配置、バランスが良い作品ということを是非認識してください。晩秋から冬に向かう季節感のある色合いと光の加減も相まって、静かな時間を共有させてくれる作品です。

「印旛溪谷の夜明け」



撮影場所：印旛沼印旛捷水路

撮影者：鈴木 康雄

午前中早い時間に「狙い」に行き、かつ水面が風の状態で絶好のタイミングで撮影出来たのはもちろん、橋のアーチと色の組み合わせ、シンプルなフレーミングが好印象です。ただ、9月ごろの夜明け時間はおおよそ5時20分前後。夜明けというタイトルにしては少し明るい雰囲気です。

「水入る」



撮影場所：印西市瀬戸

撮影者：田村 雅彦

水田一枚一枚が白く輝く様子。この作品の最大の魅力です。逆光でこそ捉えることができる写真ならではの表現が生かされた狙いが鋭い作品です。作者の経験値もさることながら、光を見事にとらえた作品としては今コンテストの中では一番かもしれません。